

令和元年度 射水市議会 議会報告会 報告書

- 開催年月日 : 令和元年10月26日(土) 午前10時～午前11時45分
- 会場名 : 射水市子ども子育て総合支援センター「キッズポートいみず」
- 参加者数 : 46名
- 出席議員 : 加治 宏規、高畑 吉成、根木 武良、瀧田 孝吉、島 正己、
中村 文隆、山崎 晋次、石黒 善隆、不後 昇、吉野 省三、
伊勢 司、津田 信人、堀 義治、竹内 美津子、奈田 安弘、
高橋 久和、小島 啓子
(17名)

第1部：議会報告での意見交換	
質問・意見の要旨	議員回答の要旨
<p>土日や夜間の議会開催は考えているのか。</p>	<p>【議長】 土日や夜間の議会開催について議員間で協議しているが実現には至っていない。今後の検討課題だと考えている。</p>
<p>議員の災害時行動計画を策定したことにより、災害時に議員はどのように行動するのか。</p>	<p>【議会改革特別委員長】 災害が発生した場合に議員がコミュニティセンター等へ出向いて状況を把握し、議長判断により市の災害対策本部へ報告することとしている。なお、本来は市長のみが議員を招集する権限を持っているが、災害時行動計画では議長も議員を招集することができる。</p>
<p>これまで年金に関する陳情書を提出していたが、結果は全議員へ陳情書の写しが配布されただけであった。年金は全市民に係る重要な問題であり、本会議で採決すべきである。</p>	<p>【議長】 陳情書の取り扱いについては、その内容により、陳情の趣旨を周知するため議員に写しを配布するもの、委員会に付託するもの、本会議で採決を行うものがある。陳情の内容を認識してしっかりと取り組んでいることを理解してほしい。</p>

質問・意見の要旨	議員回答の要旨
<p>議員定数が適正かどうかをどのように判断しているのか。客観的なデータはあるのか。</p>	<p>【議長】 人口や財政規模が射水市と同規模の市である類似団体と比較して判断している。なお、射水市は類似団体の中では中間だと認識している。</p>
<p>議員定数は減らせばよいというものではない。</p>	<p>【議長】 議員定数を減らしたことにより、議員のいない地域の声を拾い上げることが難しくなったなど、弊害もあるため、議員定数については必ずしも減らせばよいわけではないことは理解している。</p>
<p>どのような問題が発生したから議会改革を進めているのか。</p>	<p>【議会改革特別委員長】 問題が発生したから議会改革を行っているのではなく、より良い議会となるよう議会改革に取り組んでいる。なお、議会基本条例に基づく議会改革の取組として、議会報告会、議員間討議及び議員の災害時行動計画の策定を行った。</p>
<p>政務活動費はいくらなのか。</p>	<p>【議会改革特別委員長】 政務活動費は議員1人当たり月5万円となっているが、使い切っている議員は少ない。また、支払方法は精算払い（後払い）となっている。</p>

第2部：グループワーク（意見交換）

【地域振興会長等のグループ】

○「子ども見守り隊」について

- ・ 南太閤山地区では「子ども見守り隊」が登下校時や緊急時などに街頭に立ち、あいさつ運動などを行っているが、長寿会や地区役員などの確保が難しくなってきたおり、見守り隊のなり手不足を感じている。
- ・ 沖塚原地区では「子ども見守り隊」に老人クラブから2、3人出してもらっている。
- ・ 榎田地区ではバス通学のためバス停留所まで母親や家の人が送迎している。
- ・ 例えば事件などが発生したとき、「子ども見守り隊」へどこからどのようにして情報を伝えることになっているのかよくわからない。
- ・ 南太閤山地区でも先般クマが出没した際パトロールの依頼を受けたが、依頼は学校からなのか、地区パトロールを実施した消防からなのか、それとも警察からなのか、よく状況が呑み込めなかったことがあった。

議員側から発言したこと

- ・ 「子ども見守り隊」へ緊急時の状況が正確に伝わっていないとすれば問題ありと言えるかもしれない。現在の学校側の対応策を確認して、「子ども見守り隊」とも情報を共有できる連絡網を整備する必要があるか、議会として協議してみたい。
-

○地域とのつながりについて

- それぞれの校下や地域で「子ども見守り隊」も含めた子どもに関する事業のやり方にばらつきがあるのではないかと。一定ラインの指針があれば対応しやすいと思う。また、学校では地域とのつながりをどのように指導しているのか。特に大規模校といわれる学校においては地域と顔の見える関係を築きにくく、子ども達が見知らぬ人に拒否反応を示してしまうと、地域の人とのつながりを構築できないのではないかと心配である。
- 大門地区では来春から「地域支え合いネットワーク事業」を始める予定である。高齢者にばかり目を向けてしまう傾向があるが、地域で子ども達を育てることの大切さを感じる。

○核家族化や共働き世帯への対応について

- 核家族化や共働き世帯が増えていると思うが、子どもが急に学校で熱を出した場合等への対応策や、小中学校における緊急時の連絡体制はどのようになっているのか。

議員側から発言したこと

- 射水おおぞら保育園では園内の病児保育室において2名の園児を預かっていたが、平成30年8月から園内に別棟「さんさん」を増設し、定員を5名までに拡大している。また、今年の9月からは対象年齢を未就学児から小学校2年生までに拡大したところであり、さらに来年度からは小学校3年生までに拡大する予定である。
緊急時の連絡体制については、家庭事情により異なるが、自宅や親の職場以外に、近所に住んでいる祖父母の連絡先も学校へ知らせてもらっている。
- サービス業に従事する人が多くなってきていると思うが、土日も受け入れてくれる保育園の拡充が必要ではないか。

議員側から発言したこと

- 現在、保育園23園のうち6園、認定子ども園5園のうち3園で休日保育が行われている。「子育てするなら射水市で！」という思いは市長も議会も同じであるが、保育現場における保育士の確保が難しく、どの園でも実施という訳にはいかないと考える。

【子育て中の母親等のグループ】

○主な発言

- ・ 市が毎年発行している子育てガイドについては過去のものはあるが、2019年度版は持っていない。子育て世帯等が最新版を入手しやすい環境整備を。
- ・ ちゃいる.comの利用者は少ないが、利用者からは行事が見られる、予約できると好評である。
- ・ 市には公園や子育て支援施設が充実しており素晴らしい。
- ・ 兄弟で園が違ったり地元の園に入れない等、保護者の負担が大きいケースがある。
- ・ 保育園や小学校について施設の規模や先生の数が地域によって差があるように感じるので、平準化してほしい。
- ・ 射水市は、発達支援員募集がゼロだった。他市は募集しているし、職員は不足しているはずなのに。
- ・ 発達障害の子、そうかもしれない子につながっていくところが少ない。保育園を卒園した後も継続して支援を受けられる施設（富山市の高志リハ、高岡市のきずなのような場所）が射水市にもあればよい。
- ・ ことばの教室でベテランの先生の指導を受けたことがきっかけとなり、キッズポートから高志リハにつながった。各園での就学前のサポートは十分でありそれぞれの成長にあったサポートをしてもらえた。
- ・ 発達障害は、親（保護者）もそれを認める（受け入れる）まで時間がかかるデリケートな事項である。

議員側から発言したこと

- ・ 過去に市議会場でさらなる子育て支援の充実に向けて射水市にも「高岡市きずな子ども発達支援センター」のような施設を開設するべきではないかと提案したことがある。実現はしていないが、今後も複雑化・多様化する子育てのニーズに素早く対応するべく市当局へ働きかけていく。